

視点

Key Factor for Success



段ボールでも東北の元気な姿を 一日も早く包みたかった

レンゴー社長 大坪 清

去る3月15日、レンゴー新仙台工場の起動式を執り行った。新仙台工場は、昨年の東日本大震災で壊滅的被害を受けた仙台工場の復興・再生のシンボルとして、グループの総力を挙げて建設に取り組んできたものだ。

当日は、村井嘉浩宮城県知事をはじめ地元の大和町、建築施工や機械、設備など、新工場建設でお世話になった関係者をお招きして、コルゲータ(段ボール)を製造する中心となる機械)の起動ボタンを押した。

困難な状況の中で本当にご苦労をお掛けしたと思うが、それらを克服し完成に導いていただいた関係各位には、この場を借りて心からお礼を申しあげたい。工場の再建を発表したのは、震災後3週間ほどしてからだった。建築鋼材は集まるのか、機械は間に合うのか、そんなに早く建築許可は下りるのかと心配する声ばかりだった。しかし「やる」と決めたらできるものだ。さらに、トヨタ自動車をはじめ、周

辺の企業も刺激を受け、工場建設の動きが促進されたと聞く。少しでも復興の先導役を果たせたかと思うとうれしい限りだ。

物事の取り進めにはスピードが不可欠だが、特に組織のリーダーには、素早い決断力が求められる。震災後、あらゆる情報を集めて分析し、被害の規模と状況を把握して、素早く決断できたことが、いち早く工場を再建できた理由だが、その前に何があっても雇用は必ず守ると決めていた。

正しい決断のためには、何よりも正確な情報をたくさん集めることが大事だ。そのために日頃から正確な情報収集の体制づくりを進めておくことが肝要だ。正確な情報がなければ、正確な判断はできない。

そして、やると決めたらやり抜く覚悟、いわゆるネゴシエーションのパワーがとても重要だ。これが今の日本の経営者には欠けている気がする。決めたことに対して横やりがいろいろ

入るのは決まっている。それを跳ね返すネゴシエーション・アビリティ(交渉力)だ。自ら直接、村井知事をはじめ関係先を訪ね協力を要請すると、「ぜひ応援しましょう」と励ましていただいた。郷土愛が強く、自分の土地への愛着が強いこの地域で、地元産業と表裏一体の密接な関係にある段ボール工場の撤退は、あり得なかった。

起動式にさかのぼる2月20日、一時的に各工場へ勤務場所を移していた従業員が、全員新工場に戻ってきた。再び「自分たちの工場」で働けると、みんな目を輝かせ張り切っている。百万一心、全員が心をひとつに合わせて取り組んだ成果だ。

レンゴーグループの震災対応は、これでひとつの区切りを迎えるが、被災地の復興はまだ緒に付いたばかりである。新仙台工場が地域経済の重要な担い手として、これからも本場の復興・再生に向け、貢献していく決意であることは言うまでもない。

本連載は、大坪清、海江田万里、北川正恭、茂木友三郎、清田瞭、平沼越夫の各氏が担当します